



発行者兼編集者
鵜戸神宮
社務所
印刷所
西日本印刷

ごあいさつ

宮司 佐師朝規

暑中御見舞

申し上げます

暑さ殊に酷しき折から皆様方には
益々御健勝の御事と御慶び申し上げます。



本年は国民の久しく待望致して居
りました皇太子殿下と雅子さまの
婚約が一月十九日に皇室会議で決定され、四月十二日に納采の儀、六月
九日に結婚の儀が宮中三殿の賢所で御斎行されましたことは皇祖皇宗を
御祀り致して居ります当神宮と致しましても御慶びに堪えない次第でござ
います。

又、伊勢神宮におきましては第六十一回の式年遷宮が斎行されるため
たき年でもあり、皆様方と共に奉祝の誠を捧げたいと思っております。
当県におきましては七月、フェニックスリゾートの一環であるシーガ
リアがオープン致します。宮崎駅の新装。飛行機の大型化・ダブルトラ
ッキングにより参拝者も増加する事と思われましますので、職員一同協力一
致精進致し、神宮の発展と御神徳の高揚に努力致し度き所存で御座いま
すので、一層の御力添え賜ります様御願ひ申し上げます。
尚、氏子崇敬者の方々の御繁栄と御多幸を祈念申し上げます御挨拶と致し
ます。

皇太子殿下御成婚



六月九日、私たち国民が久しく待ち望んでいました皇太子殿下の「結婚の儀」等の諸儀式が宮中にて厳かに行われました。

「結婚の儀」に先立ち、宮中三殿に皇太子殿下の結婚を行うことを奉告される「賢所皇靈殿神殿に結婚奉告の儀」が執り行われ、午前十時より「結婚の儀」が宮中三殿の賢所で執り行われました。皇太子殿下は曙の太陽を表わすめでたい色とされる黄丹袍（おうにのほう）の束帯姿で、雅子妃殿下は十二単で参進され、賢所の内陣にて殿下が告文（つげぶみ）を奏上され、続いて宮中三殿の皇靈殿、神殿に結婚の奉告をされる「皇靈殿神殿に謁するの儀」、宮殿・松の間にて天皇陛下・皇后陛下に結婚の報告をされる「朝見の儀」に臨まれました。



賢所を退出される皇太子殿下と雅子妃殿下

「朝見の儀」の後、皇居より東宮仮御所まで祝賀パレードが行われ、沿道には十九万人もの人々がつめかけ、日の丸の小旗がふられ祝福を受けられました。東宮仮御所では「供膳（くせん）の儀」、「三箇夜餅の儀」が執り行われました。又、六月十五日の「宮中饗宴の儀」にはじまった諸儀も、六月二十九日の昭和天皇の武蔵野陵を参拝されたのをもち、御成婚の諸儀式も恙なく終了致しました。

私たち国民は、皇太子殿下・妃殿下の御活躍と御皇室の益々の弥栄を御祈念申し上げます。

例祭齋行と奉祝行事

厳寒の季節とはいえ、晴天に恵まれ穏やかな一日となった二月一日、献幣使岩切重信氏（県神社庁副庁長）参向の元、午前十一時より例祭が厳粛且つ盛大裡に斎行され、責任役員、氏子、崇敬者総代をはじめ、四神宮（英彦山、霧島、鹿兒島、宮崎）宮司、県内外神社、官公衛関係、日南市、北郷町、南郷町各地区々長、全



国各地の崇敬者の参列を賜った。

祭典には、当宮の職員により舞楽「納曾利」が奉納され、厳やかな中にも華やかさをかもしだしていた。

又、今年、福岡藩伝柳生新流兵法 第十三代宗家 蒲池鎮浪氏、道場長長岡幸廣氏による甲冑を身につけての斬試が行われ、本殿には張り詰めた空気が漂い、巻藁が鋭い気合と共に一刀両断にされる光景に参列者も息をこらして見入っていた。

奉祝行事として儀式殿前広場では、第二十二回鵜戸神宮奉納四半的弓道大会が開催され、五八チーム、二十七名が参加し競技が行われ、和やかな雰囲気の中にも、四間半先にある的を射る真剣な眼差しがあった。

又、二月七日の日曜日は、第四十回剣法発祥鵜戸山頭彰剣道大会が開催され



たが、当日は生憎の雨天となった為、会場を当神宮儀式殿前広場より日南市の多目的体育館に移し、一六〇チーム、約一三〇〇名の参加の元、終日熱戦が繰り広げられ、鋭い掛け声と共に相手に打ち込む選手たちのきびきびとした姿が見受けられた。

尚、四半的、剣道大会の成績は次の通り。

(敬称略)

(四半的大会)

(団体)

▽一般①串間A②中郷③日南

▽高齢①中郷(光)②串間(一)③三財(一)



- ▽一般男子①吉野邦男(田野)②甲斐成吾(日南)
- ③宮田省三(清武)④奥村藤男(串間)⑤福森道明(未吉)
- ▽高齢男子①石川安美(大宮)②飯谷次男(小林)
- ③山野正光(大宮)④森敏男(門川)⑤東榎田正治(中郷)
- ▽一般女子①鈴木ヒサ子(大宮)②野崎ハツ子(田野)③富永ミチ子(財光寺)④竹山アヤ子(服部道場)⑤大山ツキ子(田野)
- ▽高齢女子①中山ナミヲ(中郷)②馬場セツミ(同)



- ▽一般①九州電力(宮崎)②宮崎南警察署(同)③南九州大C(高鍋)、県警機動隊(宮崎)
- ▽高校①宮崎日大(宮崎)②宮崎北(同)③延岡学園(延岡)、高鍋(高鍋)
- ▽中学①神武館(宮崎)②朱雀館(同)③稲門館(延岡)、小林輝星少剣(小林)
- ▽少年①神武館(宮崎)②通山少剣(川南)③玄武館(西都)、剣心館(串間)

祈年祭齋行

今年の五穀豊穡と国家の安泰を祈る祈年祭が、二月十七日厳肅に齋行された。当日は前日の雨も上がり、雲一つない青天の下、責任役員、氏子崇敬者総代をはじめ多数の参列のもと、午



- 〔女子個人〕
- ▽一般・高校①那須史織（宮崎北）②佐藤三都子（延岡学園）③大山真奈美（高鍋）、坂元千穂（宮崎北）
- ▽中学①小山田祥子（神武館）②小野圭美（玄武館）
- ③杉田香織（清武中）、石坂由香（三股中）
- ▽小学①興梶舞（稲門館）②児玉由香（上長飯剣友会）③原田摩須美（明道剣友会）、山下奈智香（月心館）

前日の雨も上がり、空はどこまでも澄み渡った六月九日午前十一時より、皇太子殿下御成婚奉告祭が責任役員、氏子、崇敬者総代、敬神婦人会等多数の参列のもと厳肅に齋行され、祭典の後、君が代斉唱、万歳三唱が行われた。今年、皇紀二千六百五十三年にあたる為、社務所前にて二千六百五十三組の紅白餅と記念メダルが参拝者に配布された。



皇太子殿下御成婚奉告祭

別当宮司

先賢慰霊祭

去る五月二十一日午前十一時より、鶴戸山別当墓地において歴代別当宮司遺族、責任役員、氏子総代をはじめ多数の参列を賜り、別当宮司先賢慰霊祭がしめやかに齋行された。宮司の祝詞奏上の後、願成就寺住職川崎光俊氏、潮満寺住職伊勢木俊真氏、王楽寺住職甲斐芳文氏の経が奏上され、御詠歌などの法要がいとままれた。



第七回シヤンシヤン馬道中唄全国大会 開催とシヤンシヤン馬道中再現

昭和三十年、奈須美静氏が作曲して以来愛唱されてきた「シヤンシヤン馬道中唄」の第七回全国大会が、三月二十七、二十八日の両日行われ、県内はもとより遠くは埼玉県などから合わせて五二二名が出場。少年、青年、壮年、実年、高年の各部門に分れて競われ、各部の優勝者の中からグラウンドチャンピオンが選ばれた。初日は日南市のテクノセ



- ンターで少年と青年を除く各部の予選が実施された。二日目は会場を鶴戸神宮儀式殿に移し、決勝が行われ、参加者は太鼓や三味線、尺八の軽快なリズムに合わせて熱唱し、声高らかに歌い上げた。当日は小雨にもかかわらず、民謡愛好家や一般参拝者で会場は所狭ましと埋まり、唄の終わる度に割れんばかりの拍手が送られていた。尚、各部門の入賞者は次の通り。（敬称略）
- ▽少年の部
 - ①久嶋みさち（日南）②児玉久美（日向）③久保田やよい（宮崎）
- ▽青年の部
 - ①藤崎千春（宮崎）②牟田寿子（佐土原）③漆原三重子（高鍋）
- ▽壮年の部
 - ①吉嶺静子（宮崎）②日高美智子（日南）③河内



- 正二（日向）④後藤久美（熊本）⑤横山栄子（高鍋）⑥稲積郁江（日南）
- ▽実年の部
 - ①長渡照子（延岡）②甲斐丑夫（川南）③三尾末広（日向）④細川義友（同）⑤高野照子（宮崎）⑥工藤久義（同）
- ▽高年の部
 - ①荘子照子（日南）②渡辺ミツエ（国富）③平田サチ子（都城）
- ▽グラウンドチャンピオン
 - ▽壮年の部 吉嶺静子（特別賞）
 - ▽少年の部 佐々木優（埼玉）
 - ▽青年の部 松本千草（熊本）

塩

権祿宜 本城泰興

▽壮年の部 前田敏子（鹿児島）
▽実年の部 宮嶋喜代美（福岡）
▽高年の部 森川慶吾（宮崎）

又、同大会に合わせて「シヤンシヤン馬道中を再現する会」主催の鶴戸さん詣りも行われ、県内外二十八組の応募者の中から、南川博之・いづみさん（北海道）横田智彦・美朝子さん（愛知）、芝原英明・ユリコさん（宮崎）の三組の新婚さんが選ばれ、花嫁が乗った馬の手綱を花婿が引いて境内を一周した後、本殿にて正式参拝を行った。又、熱気であふれている「シヤンシヤン馬道中唄全国大会」の会場にも披露され、しばし、にこやかな雰囲気にも包まれた。参拝者も時ならぬこの装いに足を止め、カメラに収めたり一緒に記念撮影をする姿が見られた。

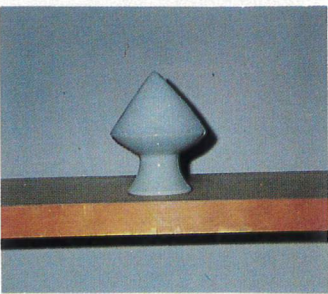
氏子さんの家に行って御祭をする時、氏子さんから「お供物は何をを用意すればよいでしょうか。」とよく聞かれる、こんな時、必ず言うのが「米と御酒と塩と水だけは用意して下さい。」と答えている。又、是等は神社での祭典でも必ず供えられる物である。この中の塩はお供えされるだけでなく、祓い清める事にも使われる。例えば、時代劇等で茶店に嫌な客が来た時など、無理矢理に追い返してその後、後に店先に塩を撒くといったシーンがよく見られるし、今、大ブームを巻き起している大相撲、この大相撲でも取り組む前に塩を土俵に撒くという様に、時には食料として、又、清めたりと多様に使われているこの塩は昔から珍重されて来ている。

人間は生きていく上で塩がなければ生きてはいけません。塩は生命維持にはかか

戸

鵜

せない物である。又、塩を作るには海水さえあればすぐ作られる物である為生産力も相当なものだったと思われる。しかし、諸外国では岩塩層・鹹湖・地下鹹水等の天然資源から採集されて来た様だが、日本にはこういった天然資源に恵れなかった為、海水から製塩を行ってきたのである。しかも、多雨多湿の気候の為天然結晶法に適さず、いったん海水を濃縮しそれを煮つめて塩の結晶を得るという独特の製塩方法が発達したのである。



引く管から海水を入れ塩田に水を滲透し、これが太陽と風力によって蒸発し、濃い海水の付いた砂ができる。この砂を集めて海水をかけて濃い塩水を取る、その塩水を御塩焼所の平釜で煮つめて荒塩につくり、それを御塩殿で御塩焔という三角錐の土師器に詰めて蒸で焼き堅塩を作るのである、これが祭典等で供えられるのである。

一三五haに達している。その後、明治四十三四年、昭和四十五年の二度、非効率塩田の整理が行われ国内塩業の規模は、塩田面積約四五〇〇ha、生産額は約六十万トナとなっている。そして第二次世界大戦後、製塩業はほとんど発展し、昭和四十年頃にはイオン交換膜法といわれる製塩法もちらちら昭和四十六年には生産力十五万ト以上の規模をもつ製塩企業が発足し塩田製塩は消滅する事となった。

新職員紹介



出仕 中原慎太郎

御創建が凡そ二千年前、第十代崇神天皇の御代と伝えられ、その後第五十代桓武天皇の延暦元年には「鵜戸山大権現吾平山仁王護国寺」と賜わり後に官幣大社鵜戸神宮にご昇格された由緒正しき御宮へ両親、恩師の厚き恩を受け奉職させて頂きました。

京都国学院に在学中は石清水八幡宮で御奉仕させて頂き、神職になる為二年間学んできましたが、実際奉職してみますと、学生の時と全く違ふと、しみじみ実感いたしております。然し戸感ってばかりはいられません。一日も早く、鵜戸神宮で一人前の神職として御奉仕出来る様に、日々是鍛練の精神で頑張っていきたいと思っております。又、奉職して三ヶ月が過ぎ、社

頭勤務で感じた事は、参拝者も様々という事です。熱心に拜まれる方、そのまま素通りで行かれる方、主祭神が御鎮座されている洞内の方へ入られない方、十人十色といった感じでした。神道は、私達が祖先から受け継いできた「心」です。その「心」が今失われようとしています。高度文明社会と騒がれても、現状は道徳マナーの悪さ、様々な社会問題をかかえています。私達は日本の文化、心を守ってゆかねばなりません。その為にも、私自身、どんな事でも吸収し、自らも勉強し、少しでも守ってゆきたいと思っております。皆様方の御指導の程、宜しくお願致します。



巫子 松田 奈々

私が、鵜戸神宮に奉仕するようになって、七ヶ月が経とうとしています。当神宮に務めることのできるうれしさと、様々な不安を抱

戸

鵜

きながらバスに乗ったあの日のことが、ついこの間のように思い出されます。

奉仕する身になってからは、御守等の名称や初穂料、色々な作法と参拝者への対応の仕方などを先輩方に教わり、太鼓と笛も御指導して頂きましたが、笛には特に悩みました。いくら息を吹き込んで、音らしい音が出ず、音が鳴るようになって、息の漏れる音が目立つのです。でも同じ笛で先輩方のきれいな音色を聞く、練習不足ということを感じさせられ、日々練習をしているのですが、なかなか「これは」というきれいな音色が出せません。しかし、「いつかは」と心に誓いつつ練習を重ねて一日でも早く先輩方に近づきたいと思っております。

最近では、鵜戸神宮の環境が改めて、すばらしいと思われれます。晴天時の海の眺めや山から漂ってくる新芽のにおいで、とても新鮮な気持ちになり、参拝者のにぎやかな笑い声や笑顔の絶えない参道を見ていると、心が和んできます。このように、自然に恵まれた



巫子 金丸 優子

鵜戸神宮の元で、奉仕できることをうれしく思うとともに、早く一人前の巫子として、奉仕できるよう、努力していきたいと思っております。まだまだ、諸先輩方の御指導が必要ですので、これからも御迷惑をおかけ致すと思いますが、よろしく御指導の程、お願い申し上げます。

自然に恵まれ、又、宮崎県の中でも観光地として有名な鵜戸神宮に、今年の春に奉職し、早くも三ヶ月が過ぎました。

私が巫子として奉仕し始めた頃は、何から覚えれば良いのか戸惑うばかりでした。しかし、先輩方の指導により、日を追うごとにいろいろな事を覚え、学ぶ事が出来ました。その時の私の一日の生活は、ビデオを早送りするようにアツという間に時間が過ぎていくように思えました。現在では



巫子 山下こずえ

幾分仕事にも慣れましたが、まだまだ覚えたり学ばなければならぬ事がたくさんあります。楽の練習も、笛の場合は息を長く続かせる事と、もっといい音色が出せる事を目標にしてこれかも頑張っ練習していいと思います。

鵜戸神宮に参拝に来られた方々から、「良い所ですね。」と言われて、私はとても感激した事があります。その言葉は、きっと先輩方が参拝者の人に対して、心のこもった接し方をなさった事から出たのだと思えました。私も、先輩方を見習い、鵜戸神宮に参拝される方々に対して、思いやりのある心で接していきたいと日々努力していきたいと思っております。

このように、まだ未熟者の私ですが、これからは頑張りますので、先輩の方々、よろしくお願致します。

高校を卒業し、何も分らないまま、当神宮に奉職し早三ヶ月が過ぎてしまいました。小さい時からお参りさせて頂いていた神宮へ「憧れの巫子さん」の容姿で奉仕するようになると思ってもいけません。最初の方は右も左も分からず、先輩方からの教えを一つたりとも聞き逃すまいと、頭に叩き込むことで必死でした。何度教わっても出来ないこともあり、イライラさせてしまったこともあったと思います。でも先輩の巫子さん達は嫌な顔一つせず、同じ事を何度も繰り返し返して下さり、覚えられるまで泣きたくなく、そんな時でも先輩たちは、自分たちが見習いの時の辛かった事などを話し、励まして下さいました。ですから今ではだいぶ仕事も覚え、職場の雰囲気にもやっと慣れてきた所です。

しかし、まだ全体への気配り、目配りが十分ではなく、気付かない点もたくさんあり、先輩達には迷惑のかけっぱなしです。ですから一日も早く仕事をきちん

と覚えて一人前の巫子になりたいです。鵜戸神宮には、多くの参拝者の方々がおみえになります。その方々に「鵜戸神宮に来てよかったね。また来たいね。」と思っ頂けるよう笑顔と親切さを忘れず、一生懸命奉仕させて頂きたいと思っております。



巫子 永嶋 知子

生年月日 昭和四十八年十月二十四日
家族 父、母、姉
趣味 ドライブ
常の信条 努力

御成婚成就祈願依頼

先年、愛知県の岸甚吉氏、福岡県の吉富敏江氏より皇太子殿下御成婚成就祈願の御依頼があり、早速、御本殿に御祈願を捧げた。

私たちも、一般の方からこのような依頼を受けた事

を嬉しく思い、目出度くも御成就遊ばされ、愈々奉祝の誠を捧げなければと、意を強くして御成婚当日を迎える事が出来たのは喜ばしい事であった。

一本杉の挿木植樹

平成二年の台風十九号により折れた一本杉(推定樹齢八百年、高さ四十二・五メートル、幹回り六・七メートル)の枝を、氏子の平下与平氏(日南市鶺鴒)が自宅に持ちかえり、大切に育てられ今年の一月漸く八本が植樹された。

私たちは、この挿木がすくすくと成長し、鶺鴒の空にそびえる事を願いつつ、又、後世の宝となるよう見守っていきたい。



いさみ太鼓 奉納

山々の木々も新緑の季節となりはじめた五月。黄金週間の最後の日となった五日(こどもの日)には、地元の子供たち四十五名による、恒例の「いさみ太鼓」が午前十時より御本殿前にて奉納され、鶺鴒の大神様と祖先の恩に感謝すると共に、無病息災を祈願した。

この日は、早朝の雨は上がったものの、今にも泣き出しそうな天気ではあったが、揃いの鉢巻、法被姿の子供たちは、当神宮下の荒磯に打ち寄せる荒波の様子を大小の太鼓で表現し、天まで届けと言わんばかりに元氣よく力強く叩いていた。参拝者もこの雄壮ないさみ太鼓に大きな拍手を送ったり、カメラやビデオを向けていた。

午後からは、子供たちの願いが通じたのか時折、太陽が顔をのぞかせ、鯉幟も元氣に泳いでいた。



編集後記

五月五日は「こどもの日」(端午の節供)で祝日でしたが、皆様どのようにお過ごしになりましたでしょうか。端午とは、端は初めの意で、月の初めの午の日をいい、五月とは限りませんでした。五月五日をいうようになったといわれています。

辞令

主典 本城泰興
鶺鴒神宮権祓宜に任ずる
神社本庁(三月二十一日付)

出仕 日高鉄弥
主典を命ずる

(三月二十一日付)

出仕を命ずる
中原慎太郎

(三月二十一日付)

○この日は、古来より菖蒲や蓬を門口にかけ、邪気をはらったり、又、菖蒲の葉や根を入れてわかしした菖蒲湯は、体を浄め邪気をはらうとされています。

又、尚武と菖蒲の音通から雛節供と対照する男子の節供とされ、徳川時代には五節供の一つとされています。(中武)

